

現場風景・あかり光景 83

都内に存在する各清掃工場の煙突の高さ比べにみる「東京への一極集中」 ～高さ210mから47mまで多士済々の煙突たち～



清掃工場の煙突の高さは人口密集度とも比例している。人間はまさに「ごみを出す動物」である

写真は本欄で定点観測し、折にふれその進捗状況をお伝えしている練馬区「光が丘清掃工場」建て替え工事の現況の一端、「出来上がりつつある煙突」を光が丘公園側から遠望した風景だ。冬の装いの落葉樹の向こう側にのぞく白い煙突の様子は、まるで春先の公園に萌え出るツクシの子の姿を、先取りしているかのようでもある。

光が丘清掃工場の完成は2020年度末から翌年度のはじめにかけての時期が予定されており、まだ一年以上先だ。地下躯体工事が昨年夏に完了、現在は「地下鉄骨工事、煙突工事、プラント工事等」（光が丘清掃工場建替工事だより・第4号より）が佳境に入りつつある状況らしい。

なかでも最終的に150m前後になる煙突の「高さだけ」の完成度については現在、7割程度といたったところだろうか。目測でしかないのだが、100mは超えているようにみえる。

工事初期には「1週間に4mずつ」（同）という、かなりの速度で高さを増していった煙突だが、

現在はじりじりと、だが着実に、少しずつ少しずつ高さを増している、という感じだ。

ところで先日、都内（23区）清掃工場の「煙突背比べ」という面白い資料をネットで見つけた。それによれば都内で最も高い清掃工場の煙突は豊島清掃工場（豊島区）の210m、最も低いのは大田清掃工場（大田区）の47mなのだ。そう、光が丘の150mは最もポピュラーで、都内6か所の清掃工場の煙突が同じ150m。

そして豊島が210mもの高さなのは、近隣にサンシャイン60（地上239m）があるからだという。サンシャイン60に煙突から出る排ガスがかからないようにするための配慮なのだ。一方、大田の47mは、近隣の羽田空港を離発着する航空機の飛行高度に悪影響を与えないための措置なのだとか。

なるほど煙突の高さに地域性が出るのはもつともな話だが、あらゆる都市的集積が集中し、ごみ処理施設も全国最多の東京の煙突には、地域性がより強く出るといふことなのだろう。（砂耳）